

為としての音楽ストリーミング行為に注目することは、日本人の音楽視聴行動の一端のみならず、グローバル化するファンダムの現状を把握するうえでも重要な意義がある。

今回、スノーボールサンプリングによって7名の対象者を抽出し、事前にインタビューへの同意を得た。質問票調査

を経たのち、対面でインタビューを実施した一名を除く6名には、Zoomを利用して遠隔で半構造化インタビューを行った（2時間～4時間ほど、合計約17時間）。韓国在住の韓国人女性ファンには、個別に質問票を作成し、文書のやりとりの中でデータを得た。調査概要は「表1」とおりである。

表1 インタビュー調査概要

	年齢	職業	性別	出身	好きなK-POPアイドル	日程
A	31	広告代理店	女性	東京	BTS, Stray Kids, ONF	2020/9/23
B	20	大学生	女性	神奈川	少女時代, SHINee, SuperM	2020/10/13
C	20	大学生	女性	埼玉	2PM, Stray Kids	2020/10/29
E	20	大学生	女性	東京	BTS	2020/11/2
F	21	大学生	女性	埼玉	東方神起, EXO, Cravity	2020/11/11
G	19	フリーター	女性	韓国	EXO, NCT	2020/11/13
H	19	大学生	女性	神奈川	BTS, SEVENTEEN, MONSTA X	2020/11/16

### 3. 事例研究

#### (1) スミンの背景としての音楽チャートとサブスクサービス

まずはスミン行為の背景について確認していきたい。2010年代半ば以降、韓国では音楽ストリーミングサービスが著しい成長を遂げた。韓国メディア『毎日経済』によれば、2013年には33.7%に過ぎなかった音楽ストリーミングサービス利用者が、2015年には71.6%へと急増するなど、韓国では早くから音楽サブスクが浸透している。こうしたサービスの普及に伴い、同時期から韓国で浮上したのが「음원사재기 논란(ウモンサジェギノルラン/音源買占め批判)」である。「買い占め sajaegi 사재기」とは組織的に実施されるフィジカルCDの買い占めや、デジタル音源

のストリーミング再生数、ダウンロード数に基づく音楽チャートの不正買い占め行為を指す。一部の芸能事務所が所属アーティストのランキングを操作するため、不正な金銭授受を伴い組織的なチャート操作を行なっているとの疑惑が持ち上がった。韓国の音楽批評家は、こうした「チャート操作ビジネス」がしばしばブローカーを介して頻繁に行われており、チャートにランクインさせるために数億ウォンが動いているという<sup>[8]</sup>。疑惑は次第に膨らみ、ついに大手事務所の代表や著名なK-POPアイドルまでもが警鐘を鳴らすに至った。

これらの背景には、リアルタイムで更新される音楽チャートの存在と、それに依存する音楽業界の体質がある。